

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	0871000303		
法人名	医療法人 光潤会		
事業所名	グループホーム ゆうらく		
所在地	茨城県下妻市江2443番地の1 (電話) 0296-30-1400		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成20年12月12日	評価確定日	平成21年4月10日

【情報提供票より】 (平成20年10月6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年1月16日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨平屋造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	14,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成20年11月8日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	1	要介護2	5		
要介護3	6	要介護4	5		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 87 歳	最低	80 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	平間病院 渡辺歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

設置法人が経営している病院や福祉施設がホーム周辺にあり、身体状態に変化があった場合や緊急時に支援を受けられるため、利用者や家族はもとより職員も安心して仕事ができる状況にある。
終末期や重度化した場合は家族の同意を得て、職員で確認しあいながらホームで看取る体制になっている。
管理者と職員は利用者の情報を共有し、生活と健康を守るよう支援している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価の結果を職員に周知するとともに、利用者が安心して生活ができるよう改善に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 外部評価や自己評価の結果をスタッフ会議で話し合い、改善に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者や家族、自治会の代表、管理者、事務部長、市の職員でサービス内容を確認するとともに運営に活かせるよう意見交換をしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホーム便りに利用者の暮らしぶりを掲載するとともに、面会時に健康状態を伝えたり出納簿を見てもらうなどで報告をしている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の夏祭りや納涼祭に参加し地域の人々と交流している。
	重点項目④

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が住み慣れた地域で家庭的な環境のもと暮らすことができるよう、職員は利用者一人ひとりに寄り添い個人を尊重する理念を実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共用空間に掲示するとともに毎朝ミーティング時に唱和している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや納涼祭に参加し地域の人々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価や自己評価の結果をスタッフ会議で話し合い、改善に取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者や家族、自治会の代表、管理者、事務部長、職員、市の職員でサービス内容を確認するとともに運営に活かせるよう意見交換をしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が市の地域密着型の運営委員となり意見交換している。 疑問点は意見を聞いて市と連携を図っているが、記録を残していない。	○	市に問い合わせた記録を残し、サービスの質の向上に活かすことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りに利用者の暮らしぶりを掲載するとともに、面会時に健康状況を伝えたり出納簿を見てもらおうなどで報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時職員から声をかけ、話や苦情・相談を聴くようにしている。 苦情があった場合は迅速に対応している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者はユニット間を自由に行き来し、職員と顔馴染になっている。 職員の福利厚生面が充実しているため職員の離職は少なく、働きやすい環境づくりを心がけている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、外部や内部の研修を計画的に実施している。 外部研修は研修手当を支給することで職員は積極的に受講しスキルアップを図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県と市のグループホーム連絡協議会に加入し、相互の交流を図るとともに情報交換をしている。 連絡協議会で看取りについての学習を実施している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームの見学をしてもらうほか、慣れるまで同じ敷地内のデイサービスを利用し顔馴染みの関係をつくってから利用を開始している。 また、体験利用も受け入れている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩として利用者を敬うとともに野菜作りや収穫物の調理法などを教えてもらったり、ピアノを弾く人からは生活の潤いをもらうなど支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前にアセスメントをし、利用者の生活歴を知るとともに思いや暮らし方を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向を聴きサービス担当者会議で話し合っって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者ごとに評価し目標の達成状況を把握するとともに、利用者や家族の意向を確認し毎月のケース会議で話し合っって状態に即した介護計画に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体法人は地域の中の医療・福祉の施設として機能しており、ホームでのリハビリの方法は理学療法士に指導を受けている。往診も柔軟に応じる体制になっている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の既往歴を把握し、母体法人の病院や眼科、歯科など希望にそって受診できるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時看取りに関して説明し同意書ももらっている。 協力医療機関と連携し重度化した場合は家族に再確認するとともに、担当医から状態の説明を受けている。 看取りに関する指針を作成し、職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の言葉使いや態度は利用者一人ひとりを尊重した対応で支援しているが、介護方法マニュアルにプライバシー保護の記述がない。	○	介護方法マニュアルにプライバシー保護についての記述が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切にのんびり、ゆっくり、自由に過ごせるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	アセスメントで嗜好を把握して献立を作成している。 自家菜園の収穫物を利用した料理を作っている。 利用者が持っている力を活かして食器拭きや配膳、下膳を手伝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は個浴で利用者の希望にそって支援している。 季節に合わせてゆず湯、菖蒲湯などを取り入れ楽しんでいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用時のアセスメントにより経歴を把握し、台所の手伝いやピアノを弾く人などの出番をつくり、日常生活に変化や楽しみを持たせる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日天候をみながら職員が利用者と一緒に散歩に出かけたり、花壇や畑の草取りをして季節感を感じてもらっている。 買い物や外食の外出支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組み、外出しそうな利用者には制止させるのではなく行動を共にして支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力により併設施設と合同で防災訓練を実施している。 非常食は本部が備蓄している。	○	災害時は地域の人々の協力が必要であることから運営推進会議などを活用して防災訓練の参加を呼びかけ、協力してもらえ体制づくりを期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と相談してバランスよくカロリー計算された献立をたてている。 食事の摂取量は毎食チェックし、水分摂取量は必要のある人のみチェックしている。	○	水分摂取量については全利用者の確認が大切なので、水分摂取量のチェックを食事摂取量とともに実施することが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である居間から季節の草花や自家菜園が見え、心安らぐ場になっている。 また、天窓から光を取り入れたり玄関にピアノを置くとともに季節の花が飾られ、落ち着いた雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口は手作りの作品や季節の写真などを飾ったり、全居室に畳の部分があるので足を伸ばせるよう配慮している。 使い慣れた物品や位牌を持ち込んでいる利用者もいる。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。